国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報 中部の森林（もり）林

飛騨署での高山パトロール実習

各署でインターンシップを実施

（P３～５に関連記事）

主な項目

○ 新任幹部挨拶 …… P2
○ カラマツ新緑写真コンテストについて（審査結果） …… P5～6
○ 各地からのたより …… P6～8
○ シリーズ「森林官からの便り」 …… P8～9
○ シリーズ「ご当地自慢」 …… P10

新任幹部挨拶

計画保全部長
角（すみ）　秀敏（ひでとし）

この度、九月一日付けで計画保全部長を拝命しました角です。

珍しい苗字と思われるかもしれませんが、出身地である福岡県の八女地方（お茶の産地です）では割とありふれた苗字です。林野庁では、北国の経験が多く、旭川支局、秋田局、北海道局そして中部局で勤務しています。

私の場合は、同じ業務を複数回経験するということが多く、森林計画業務が二回、森林レクリエーションなどの森林総合利用業務が二回、民有林の行政手段の一つである制度金融業務が三回、北海道の旭川での勤務が二回あります。

ＰＤＣＡサイクルは、計画（plan）、実行（do）、評価（check）、改善（act）のプロセスを順に実施し、最後のactから、次回のplanに結び付けることによって、業務活動を推進するマネジメント手法ですが、私の場合は同じ業務を二回（場合によっては三回）経験することで、ＰＤＣＡサイクルを実感することができました。

具体的には、かつて自分が係わった制度金融が、利用者ニーズを反映し改善され、より利用しやすくなったとか、逆に、当時はかなり苦労して関係者に説明し、ようやく作った事業や制度が、たぶん評価が芳しくなく、いつの間にか消え去ってしまっていたとか、自分が携わった業務のその後について、自ら検証する機会を得ることができました。

中部局での勤務は、四年ぶりで、二回目となります。

当時、国有林は一部独立行政法人化の議論がなされていましたが、今年の春に組織すべてが一般会計化され、当時からすると想像ができなかった姿になりました。また、公益重視の管理経営を一層推進し、森林・林業再生、地域振興をはじめとした各般の政策実現のための事業・組織として新たなスタートを切ることになりました。

四年前は、森林計画業務に携わっていましたが、その時樹立された森林計画はどのように実行され、どのような評価を受けたのでしょうか。また、一般会計化を受けて、当時は考えも及ばなかったような改善点などもあるのではないでしょうか。これから、現場を見せていただき、また色々と教えていただきながら、職員の皆さんと一緒に計画保全の業務を進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

◆角計画保全部長の略歴

生年月日	昭和三十五年四月二十二日
本　籍	福岡県
略　歴	九州大学大学院農学研究科卒（S61・3）
昭61・4	林野庁厚生課に採用後、旭川局富良野署、計画課、経済局統計情報部農林統計課、流通統計課、林野庁林政部企画課を経て
平6・8	秋田営林局眞室川署長
〃8・8	農林漁業金融公庫融資第二部調査役
〃11・4	林野庁業務課課長補佐（国有林総合利用企画班担当）
〃12・8	林野庁木材流通課課長補佐（安定供給班担当）
〃13・1	林野庁木材課課長補佐（需供情報班担当）
〃14・8	林野庁研究普及課課長補佐（研究班担当）
〃16・4	林野庁企画課課長補佐（金融班担当）
〃19・4	中部森林管理局計画課長
〃21・9	林野庁業務課国有林野総合利用推進室長
〃24・4	北海道森林管理局上川中部森林管理署長
〃25・9	中部森林管理局計画保全部長

お世話になりました

前計画保全部長　宿利　一弥

このたび、九月一日付けで東北森林管理局管内の青森森林管理署に異動することとなりました。二年三か月あまりの間でありましたが、皆様には大変にお世話になりました。

立山連峰はじめ日本アルプスから太平洋側の低山帯まで、変化に富んだ自然環境を有し、また多様な歴史的・文化的背景の下、観光地、温泉地も多い中部局管内には、他地域では見られない木曽ヒノキや本場のカラマツ、段戸国有林のように特色ある森林資源にも恵まれ、こうした伝統ある職場で仕事ができたことは貴重な経験としてありがたく、また楽しく過ごさせていただいたことは皆様のおかげと感謝しております。

着任は東日本大震災、長野県北部地震の直後の一昨年の五月でしたが、准フォレスター研修が開始されるとともに森林法の改正、森林・林業基本計画の改定など、森林・林業の再生に向けて林政の転換・再構築が始まっておりました。中部局においても、各署等で実施されてきた低コスト作業システムの現地検討会のほか、列状間伐や鳥獣被害に関する講演会など、折から国際森林年でもあり、外部の方々も交えた各種行事が企画、展開されたところでした。また、共同施業団地

の設定拡大をはじめ保護林の新設やニホンジカ被害対策等も局・署関係者の協力の下で推進できました。

今さらながら、もっとこうすれば良かったなどの反省のみならず、正直申してやり残したことも多々あり、自らの至らなさを痛感するとともに、後ろ髪を引かれる（もとより前髪はない）気持ちがしております。

一般会計で運営される国有林には、公益的機能の一層の発揮と森林・林業の再生、木材・木質資源の利用拡大への貢献が強く期待され、これまで私たちが事業実施を通じて蓄積してきた知識や経験、技術力を組織的に展開していくことが極めて重要ですが、これらのベースとして一番大切なことは、地元の住民や国民の皆さんと対話ができ、私たちを理解いただき、地域から信頼される存在となることだと考えます。

今後将来にわたり、中部森林管理局と管内署等がその活動・事業展開を通じて地域から信頼され、さらに地域の林業をリードし、事業体の育成や、再生産が可能な木材・木質資源の供給利用の拡大に貢献され、国有林全体を先導する存在となることを期待しますとともに、職員の皆様の益々のご健勝とご多幸を心から念願しまして、お別れの挨拶とさせていただきます。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

中部局インターンシップを各署で実施

［研修所］ 学生が中部森林管理局の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として、平成二十五年度中部森林管理局におけるインターンシップを七月二十九日から九月十三日の間、富山署、中信署、南信署、木曽署、飛騨署、愛知所の6署で、京都大学、東海大学、東京農業大学、明治大学、長野県林業大学校の五校から、学生十六名を受け入れ実施しました。

多様な業務を体験

［愛知所］ 愛知森林管理事務所では、八月十九日から二十三日までの五日間、東京農業大学森林総合科学科の男性二名と京都大学農学研究科の女性一名を受け入れ、現場業務を主体にした就業体験を行いました。

体験の内容は、段戸国有林において①治山事業請負工事の監督業務補助及び治山ガーデンの歩道測量、②小学生を対象とした森林教室（自然観察案内）での講師体験、③森林環境保全整備事業（保育間伐活用型）の請負事業地で監督業務の補助等を行いました。

また、森林官の業務補助として豊橋国有林での④収穫調査（標準地プロットの設定から野帳入力まで）を実施したほか、⑤プレカット工場、三河材流通加工センター、サテライト名倉の見学も日程内に加え、様々な業務を体験できるよう取り組みました。

現地視察の様子

今回の三名は、それぞれが政策、植生、森林管理といった観点から都市近郊林に興味を持って参加してきたことから、職員の説明にも熱心にメモする姿が見られました。

最終日の感想では「アッという間だったが、多様な業務を具体的に体験でき収穫が多かった」、「林業に対する国のアプローチが理解できた」、「進路として考えたい」との話があり、所長からの「この体験を将来に役立ててほしい」との言葉で全日程を終了しました。

小学生への森林教室

新鮮！「国有林野事業」を体感

［飛騨署］ 飛騨署では、大学生向けのインターンシップを九月二日から六日までの五日間で行いました。

今回は明治大学、東京農業大学の三年生、二名を受け入れました。

五日間のカリキュラムには、植物群落保護林・巨樹巨木の現場見学と高山パトロール等の実習体験を組み込みました。

学生達は、夏休みを利用しインターン

境界巡検実習

シップに参加しており、将来の自分探しを模索している段階で、彼らの中には教員免許を取得し、教員と国家公務員などを視野に入れ、この「国有林」を就業体験の場に選んだ学生もいました。

天候が台風の影響でほとんどが雨模様での最悪のコンディションでありながらも、現在実行中の高性能林業機械による森林整備の様子や山間奥地での治山工事の現場、保護林などの視察や境界巡検でのコンパスを使った不明標発見、間伐調査では標準地のプロット設定から、間伐木の選定・収量比数（RY）・形状比（H／D）・樹冠長率・相対間距比（Sr）などで森林の混み具合を判定し、適正な間伐方法を検討するなど懸命に挑戦していました。こうした体験は、農学部といえども学生達には新鮮であったようです。

また、最終日の乗鞍国有林での高山パトロールでは今までの天候が嘘のように晴れわたり、森林官・グリーンサポートスタッフとともに高山植物保護のための啓蒙活動を行いました。

学生達は、職業選択という重要な時期に、このインターンシップで何かを模索し、参加したのだと思いますが、お別れの言葉では、「また来ます」と元気な返事が返ってきたことで、指導者としては少々安堵したところです。

共同施業団地視察

私たちのアプローチがどれだけ、彼らの「自分探し」のツボにヒットしたかは定かではありませんが、少しでも役立てたなら幸いと感じました。

帰り際の学生達の背中を見て、彼らの羅針盤は、方向を見定め始めているように感じました。

間伐調査実習

富山署でのインターンシップを終えて

京都大学　藤井創一朗

九月九日から十三日までの五日間、富山森林管理署にてインターンシップ生として過ごさせていただきました。富山は北アルプスなどの高山を有し、そのため山地災害や洪水の被害が昔から多い土地です。

富山森林管理署では特に治山に力を入れており、インターン中もそういった治山工事の現場にいくつか連れて行っていただきました。いまにも崩れそうで非常に急な斜面での山腹工や、傾斜が強く流れの速い沢での谷止工など、実際に現場に行ってみるとそうした治山工事の必要性を実感できます。また、立山周辺の高山地域の保護林や、都市近郊の防風林などにも連れて行っていただき、国有林の様々な機能についても知ることができました。

インターン中は職員の方々がつきっきりで指導、説明をしてくださり、ちょっとした疑問でもすぐに解決でき非常に有

治山現場を上部から視察

意義なものとなりました。将来の進路を考える上でも、今回のインターンシップに参加して本当に良かったと思っています。忙しい中時間を割いていただきありがとうございます。

京都大学　三井崇史

この度富山森林管理署のインターンシップを希望した動機は、国有林の管理が行われている実際の現場を自らの目で見る経験が必要と考えたためです。木材資源の持続的利用や里山の管理の在りかたについては、本や講義で学んだことをきっかけに関心を持つようになりました。しかし、本や講義で物事の概観を学んでも実際の現場の現実を知らなければ十分な理解とは言えないため、今回実際に現場へ足を運べる機会を得られたことは大きな収穫でした。

現場を知りたいという当初の希望通り、五日間のインターンシップでは谷止工や治山工事等の様々な現場に同行させていただき、その様子を視察・見学しました。特に災害予防のための治山事業については今まで学んだことが無かったため、理解を深める良いきっかけになったと思います。

全体的に、今回のインターンシップは今後の学習や進路選択に向けての良い動機付けになりました。五日間お世話になりました。

治山現場を下部から視察

カラマツ新緑写真コンテストについて（審査結果）

［企画調整課］昨年度のカラマツ黄葉写真コンテストに引き続き、信州の春風景になくてはならないカラマツの新緑について、カラマツを木材資源としてだけではなく、観光資源としても評価していただくため、長野林政協議会（中部森林管理局と長野県林務部の間で設置している協議会）により「カラマツ新緑写真コンテスト」を実施しました。

長野県内をはじめ、遠くは奈良県の方からも応募があり、応募作品数は百八点となりました。厳正な審査を経て入賞作品が決定しましたのでご紹介します。

なお、入賞作品及び応募作品については、長野県の観光ＰＲにも資するため、長野県内をはじめ首都圏での写真パネルの展示や、観光パンフレット等への掲載等、広く活用を検討していくこととしています。

一　入賞作品

最優秀賞（長野林政協議会会長賞）
斉藤　毅「春の輝き」

優秀賞　井出利久「八千穂高原春景」

優秀賞　岩下　直「カラマツ並木」

優秀賞　古屋　治「萌える森」

優秀賞　星野吉晴「桜にカラマツの芽吹き」

優秀賞　盛　壮司「緑風の中の青春」

二　入賞作品の紹介

◆最優秀賞は、斉藤毅さんが長野県塩尻市奈良井で撮影した「春の輝き」